令和元年度　第2回北海道アザラシ管理検討会　議事概要

日時：令和2年2月6日（木）13:30～15:40
場所：かでる2.7　1040会議室

■開　　会（山中主幹）

■挨　　拶（藤島課長）

この検討会は、アザラシ類の現状や対策の実施について、学識経験者の皆様方に参集いただき、専門的かつ科学的な評価の検討を行い、その意見等を聞くことで、北海道アザラシ管理計画の適正な推進に資することを目的に設置されたもの。

アザラシによる漁業被害は、依然として深刻であり、その個体数を適正に管理することが求められていることから、道では、平成２７年度に北海道アザラシ管理計画を策定し、定着する個体の削減、有効な被害防除対策の検討などに取り組んでいるところ。

構成員の皆様やオブザーバーの皆様には、それぞれの立場から忌憚のない意見をいただきたい。

■議　　題

１　平成31年度（令和元年度）調査事業について 小林座長から「その他」資料を用いて道委託事業「ゴマフアザラシ広域連携捕獲実証調査業務」について説明

【主な意見】

○久保寺漁業調整事務所長　個体数のカウントの仕方について、時間によって個体数は変わるのか。

○小林座長　変わる。定点カメラで、およそ１時間間隔で撮っているが、集計すると、午前中に多いことが判明しているので、午前中のデータを使うようにしている。

○久保寺漁業調整事務所長　刺し網でアザラシを捕獲するということが想像しづらい。どうやって船に上げて回収するのか。

○小林座長　ある程度目合いが大きくて破れない刺し網に絡まった個体をそのまま船に乗せる。そして、網を切るか、うまくほどいて捕獲するという方法になる。

２　平成31年度（令和元年度）事業実施計画の実施結果及び評価 ３　漁業被害調査結果について ４　令和2年度事業実施計画（案）について 事務局から、議題2～4について一括説明。資料1～資料7を使用

（漁業被害調査結果について宮内構成員補足意見）
○宮内構成員　この漁業被害の聞き取り調査は、漁業被害金額だけではわからないことが多いため、各漁業、漁師から丁寧な聞き取りをする必要があるということで、管理計画の中に入れて毎年実施しているもの。
ヒアリングでは金額だけではわからないことが多くあり、私と事務局、小林座長も一緒に、どういうことを聞けば全体的な実態がわかるのかということを試行錯誤しながらやってきたところ。聞取調査の内容については、フォーマット的なものが大体決まってきたと思う。それを資料４という形でまとめている。
継続的に実施することで多くのことがわかってきた。また、調査の対象も少し増やした。例えば、先ほどの数字が上がっていない初山別などにも行ってみたら、隠れた漁業被害などが浮かび上がってきているので、こういう聞き取り調査という形のモニタリングは今後も続けていく必要があると思う。
しかし、聞き取り調査の結果は定性的なもので、言葉が並んで非常にわかりにくいため、少しわかりやすい形ということで、今、事務局で参考資料という形で示しているところ。
これはあくまで傾向なので、詳しいことは文字で書かれたものを見ることが重要である。

【主な意見】
○上村道漁連環境部長　地域によって銃で捕獲できる場所とできない場所があるとのことだが、一覧にしたものはないか。撃って良い場所とそうでない場所はどのように見分けるのか。
○事務局（梅谷主査）　アザラシについて、場所によって撃てるとか撃てないというデータはない。フラットな場所（バックストップのないところ）や人が多いところなど、場所によっては人の目もあるので、捕獲状況を見せるのはあまり好ましくないと思われる。
○小林座長　加えて、港の中では撃てない。また、天売島のように海鳥がいるところでは、保護のために装薬銃は使わないということがある。つまり、場所によって異なる。
○太田環境省野生生物課課長補佐　資料２の６ページの「ゴマフアザラシによる漁業被害額」の振興局別の内訳について、この中にゴマフアザラシの被害額が出されているが、日高地域はゼニガタの被害もあるので、どのように集計されたのか。また、小林座長の資料の中で歯舞から太平洋に向けての分布の話があったが、十勝では特に被害は出ていないのか。
○飯島水産振興課主幹　ゴマフアザラシとゼニガタアザラシの被害額については、北海道水産林務部が漁協から被害額を聞いている。それにより、ゴマフアザラシなのか、ゼニガタアザラシなのかという確認をとって数値を出しているところ。
○三上水産振興課主査　十勝の関係では、ゼニガタアザラシの被害は報告されている。今回はゴマフの話なので資料には掲載されていないが、ここ数年の十勝の漁業被害は減少傾向にあるという統計が出ており、環境省の捕獲の効果があらわれているのではないかと考

えている。
○小林座長　ゴマフとゼニガタの区別は場所によって分けているということか。
○飯島水産振興課主幹　漁協にゼニガタのものか、ゴマフのものかということで表に記入してもらっている。ゼニガタとゴマフが混在している地域もある。ただし、十勝の場合は、ここ３年ほどはゼニガタの被害回答しかない。
○山村構成員　分け方については確認しているのか。別途、ゼニガタの被害は集計されているのか。
○飯島水産振興課主幹　ゼニガタアザラシの被害しか聞いていない漁協もあれば、ゼニガタとゴマフについて、それぞれ被害額の報告を受けている漁協もある。
○山村構成員　現地のほうで区別された上で報告されているということか。
○飯島水産振興課主幹　そのようになっている。
○上村道漁連環境部長　５ページの表５の鳥獣捕獲許可基準だが、３ヶ月以内の期間に１０人以内の従事者数で、１人当たり２０頭以内とあるが、これは１年間に道北（留萌、宗谷）全域で１０人までということか。
○事務局（梅谷主査）　違う。これは申請単位である。漁協等が一度申請するときにこの数になるということ。よって、全体ということではない。
○後藤構成員　２ページの冬期確認個体数について、約９００頭が減少し、今後とも注視が必要であると書かれている。９００頭は多い印象だが、どのあたりになると危機レベルになると考えているのか。また、計画上、夏期定着個体群を駆除することが目的となっているが、先ほどの説明では、主に冬期に駆除に出ているとのこと。冬期個体数が減少するのはわかるが、この点をどのように考えれば良いか。
○事務局（山中主幹）　第２期計画に基づき、漁業被害を減らすために冬期確認個体数についても削減していく中で、ゴマフアザラシについては全体の個体数が把握しにくい現状にある。そこで冬期については削減の目標は定めないということで計画を進めている。現状行われている程度の捕獲では、まず種が絶滅するまではいかないと思う一方、計画を進める中においては、注視する必要があるということである。
　また、実際に計画の中で削減を試みているのは夏期確認個体数である。だが、実際に調査等で確認すると、夏は漁業者が多忙であり、駆除は難しいという状況がある。これは次期計画策定時にあらためて検討する必要があるが、実際に捕獲できるのが冬となると、現在の計画を策定した当初の考えとは異なるところではあるが、順応的管理の観点からも現状を認識しつつ、冬期の捕獲が、夏期個体数にどの程度影響するかということを確認していくところ。
○後藤構成員　実際に夏期の個体数も減少しているようなので、冬の駆除でも効果があるという見方ができると思う。また、別の質問になるが、漁業被害調査で稚内の漁業被害の対象となっている刺し網だが、以前確認したときは、ここにカスベも入っていたと思うが、今回は入っていない。漁業種の変化が調査の中であったのか。また、初山別の隠れた漁業被害だが、漁をやめた漁業者は廃業しているのか、それとも、アザラシがいなくなったら

再開するつもりなのか。もし廃業しているのであれば、廃業の時点で被害はあったといえるが、現時点で隠れた漁業被害と認識するのは無理があると思う。
○宮内構成員　稚内の刺し網についてはカスベも入っていると思う。資料の表記上、代表的なものに限っているということになる。よって、カスベの被害がなくなったということではないとの認識である。初山別については、廃業した人もいるし、ほかの漁に切り替えた人もいる。よって、両方のパターンがあり、可能なら刺し網を再開することを考えている人がいる可能性があるということだと思う。
○小林座長　魚種の変化についての聞き取りは行っているのか。
○宮内構成員　魚種の変化はそれほどない。その年々の魚種が今年は不漁だったから、そもそも被害がなかったという変化はあるが、同じような漁をしていて、魚種や漁業種で被害が少なくなったということは若干あるものの、突然多くなったという変化はないと認識している。漁業種そのものを漁師が別の要因で変化させることによりその魚種の被害が突然出てくるということはある。
○山村構成員　漁業被害の内容に関しては、総額だけではなく、業種別や魚種別、地域別の経年的な変化とかを見ることで、各種の対策の結果どのように変化しているのか、例えば、ある地域で追払いをしてうまくいって追い払えたら、また別の地域に被害が移ったということなどが見えてくるのではないかと思う。
○小林座長　確認だが、今、漁業者から漁業被害を上げてもらっているが、それが漁協経由で振興局に来るときには、魚種別や漁法別でという形で来ているのか。
○飯島水産振興課主幹　北海道水産林務部で行っている調査については、漁法別、季別、月別のものがある。刺し網や定置網、その他の方法などもある。
○山村構成員　集計するフォームがあるのか。原票があり、そこまで遡れば相当細かい情報になる。
○飯島水産振興課主幹　ある時期の定置網であれば、これはアキサケに違いないとか、ある程度推定はできると思うが、正確には、魚種別では行っていない。
○山村構成員　恐らく、原票の段階のレベルまで遡ると、さらに詳細な情報にはなると思う。仮にもう少し詳細に見たい場合、それら資料にアクセスが許されると、情報の取扱いや公表に関しての注意は必要だが、より詳細な分析が可能になると思う。
○飯島水産振興課主幹　調査、研究のためであれば、外部に出さないという条件のもとに協力することも可能かと思う。しかし、その研究の最終的な目的、公表によって、どこまでできるかということは、データを提供してくれる漁協の考えも考慮し、その都度、検討する必要がある。
○小林座長　漁協被害については余り減っていない。管理自体がゴマフアザラシを減らすことが目標ではなく、漁業被害を減らすことが一番の目標なので、可能であればそういう分析もできればと思う。さらに検討しなければ、これがいいのかどうか今後どうなっていくのかという先が見えないと思う。
○宮内構成員　座長に聞きたいが、夏期の個体数は、今年度は少し増加した。これは残念

ながら、計画どおりにならなかったことになるが、どのように解釈することが妥当と考えるか。
○小林座長　去年は少し減っているように見えているが、トドも同様に日本海側で減っている状況があり、これは駆除の効果ではなく、それ以外の環境要因があると思われる。もしかすると、ロシア海域に餌条件のいいところがあるとか、日本海側に来なくてもいい理由や来られなかった理由があるかもしれないが、昨年度を除くとほぼ同じレベルだと見ている。基準年よりも４００頭くらい減少しているので、そういう意味では冬場の駆除の効果が効いているように見えるが、私は駆除効果が薄れているのではないかという印象を持っている。また、有害駆除について詳細に見ていくと、確実にその個体を捕獲する地域は比較的良い結果を出しているが、追払いをずっとやっているところは、追い払ったときは減るが、少しすると個体数が増えるときがある。今後は、駆除効果を上げることはもちろん、確実に捕獲する対策を考える必要があると思う。情報が少ない部分があり、確定的なことは言えないが、私の感覚としてそのような見方をしている。
○山村構成員　近年、基本的に様々な魚が不漁状態で、その結果、魚価が上がっていることがあるかもしれない。同じキログラム単位でも金額として高くなっていることが、この点も分析をすればすぐにわかるのではないかと思う。
○後藤構成員　駆除の効果が薄れてきているとのことだが、何年か前に小林座長の論文で、トド島のアザラシ駆除で、周辺のアザラシがベンサシに移動したという話があったと思うが、今はそういうことがなくなってきているのか。他地域で夏期個体群が増えている、例えば、宗谷などが増えているのは、他から移ってきたのか考えていたが、そういうことではないのか。
○小林座長　礼文島のトド島で駆除すると、同じ個体がベンサシに行っていることが個体識別でわかっている。ただ、様々な個体数の変動、月別の推移を比較すると、どの年も全ての地域で変わらない。よって、駆除したといっても、そこが減るというよりは、使いやすい時期に使いやすいところにいるのではないかということが考えられる。たまに動く個体がいることもあるが、ベースは余り変わらないのではないかということが、過去５年間の情報を見て思うところである。全体的に個体数は減っているが、冬に多いのは余り変わらない。どこの地域もそれぞれの特徴が変わっていないことが一つある。また、宗谷は特別で、移動してきた個体がそこで休んでから他所へ行くということが確認されているので、宗谷はほかの地域と少し違う印象である。移動の際の通り道であり、そこを主な上陸場にしているというより、場合によってはダブルカウントになっている可能性があるとも考えている。よって、宗谷の扱いは、今後、再考の必要があるかもしれない。増加箇所の一つとして宗谷が入っているので、そういうことがあると考えている。また、天売が少し増加しているが、抜海と同様に早期に来ている雰囲気があり、１０月末くらいから急激に増加する傾向がある。よって、天売も抜海と同じような処置をする必要があるかもしれない。結論は出せないが、以上が私の印象となる。
○久保寺漁業調整事務所長　基本的な話だが、トドと同様に日本が繁殖地の中心ではない。

今の話からは、漁業の盛んなところになるべく居つかせないという意味では効果があるかもしれない。しかし、駆除した分がほかの場所から移動したときに、その場所のキャパシティーとして１００％に近いほどの利用ができる状況があると、駆除の効果が限定的になると思うが、メインの繁殖地と地域における捕獲の関係をどういうふうに考えればいいのか。

○小林座長　主な繁殖地はオホーツク海の流氷上で、個体数は膨大で、多様性もあるところである。夏の生息地も北海道以北にそれぞれあり、日本海側に来ている個体の夏の生息地は、北海道に近いところにある。サハリンは東側全域に上陸場があると思うが、かなり上にいる個体が日本海に来ているわけではなく、オホーツクで止まっているイメージになる。よって、夏の生息地の個体が減れば、北海道にやってくる個体が減るというイメージがある。遠くからやってくる個体はいなくて、皆同じような距離を移動しているイメージがあり、特に、最近はオホーツク全体の個体数が増加したことによって、南側の個体が増加、それがこちらに多く来ているのかと考えている。もちろん駆除したら新しい個体が来る可能性はある。トドも同じかもしれないが、アザラシは経験値で生活しており、１回行って気に入ったところは次の年も来る傾向がある。よって、北海道の各地でタグをつけて、それらがまた発見されるということもよくある。そういう意味で、駆除の効果の一つとして、その場に居づらくさせることもあると考えているところ。

○事務局（山中主幹）　本日説明の平成３１年度事業計画実施結果評価と令和２年の事業実施計画について議論いただいたが、原案どおり決定し、会議録と同時に公表するという形でよいか。

○出席者全員　特に意見なし（原案で決定）

５　その他 留萌振興局保健環境部環境生活課　今泉主事から「天売島におけるアザラシ対策事業（留萌振興局独自事業）」について報告（話題提供）

【主な意見】

○久保寺漁業調整事務所長　刺し網の漁獲のシーンが見たい。率直に言ってなぜそんなことができるのかとすごく不思議である。すごいと思う。しかも、船外機の小型ボートで回収したのか。船の上で暴れたのではないかと考えるが、実際にどうだったのかということにすごく関心がある。

○留萌振興局　こちらに地元漁師の方と北の海の動物センターの二人が写っているが、この船でアザラシの捕獲、網を引っ張り上げて捕獲を行った形になる。（注：網で捕獲できたのはアザラシの子のみで小型であったことによる。）

以　　上